

ピアニストの健康エッセイ・9

温泉大好き

全国各地に存在する名湯は日本の財産と思えるほど、私は温泉が好きです。周囲を見渡しても、温泉が苦手という人はあまり聞いたことがありませんが、ヨーロッパの人々ははどうでしょう。

ドイツ語でバーデン(Baden)は入浴を意味する言葉ですが、実は地名として使われている町があります。そのままバーデン(ウィーンの南部に位置する町)やバーデン・バーデン(ドイツ南西部にある町)など。どちらも温泉保養地として有名な所です。

古代ローマ人は温泉好きで知られていますし、ヨーロッパには有名な温泉が多数存在します。そして、それらの保養地は18~19世紀、貴族や音楽家たちの社交の場として栄えたそうです。オーストリア・ザルツカンマーグードにあるイシュル温泉へは、休暇になるとヨハン・シュトラウスはじめ、ブラームスや著名な音楽家たちがこぞって出かけ、ウィーンの主要人物の半分が集まる、と揶揄されたほど。

湯治場というより、バカンスを謳歌するステータスの地として利用されていた面もありますが、温泉が好きなことに、洋の東西はないようです。

しかし、その入浴方法は日本人の感覚とはかなり違います。

まず、お湯はかなりぬるめ(38~40度)です。しかも現在では水着を着ての温水プール化した所がほとんど。(施設によっては、裸で様々な質や温度の湯に案内され、最後にタオルで包まれお昼寝・・・というフルコースの所もありますが)

ちなみにヨーロッパでは毎日入浴する人はあまりおらず、普段はさっとシャワーで済ませます。そして、いざお湯に浸かる際には暖かい浴室でぬるいお湯が一般的です。

冬場は寒い浴室で熱いお湯、露天風呂も大好きという日本人には物足りない感がありますが、心臓にかかる負担を思えば、温度差の少ないヨーロッパ式の入浴法の方が身体に優しいといえます。

さて、前出のバーデンにはベートーベンの暮らした家があり、彼はこの地であの「第九」交響曲を作曲したと言われています。またブラームスはイシュル温泉を大変気に入り、後年の夏はほぼこの地で過ごし、主要な室内楽曲とピアノ作品の多くを生み出しました。

温泉地ではリラックスして創造力も増すのでしょうか。

時には入浴と同様に、これらの音楽にゆっくりと浸かってみてはいかかでしょうか。

丸山美由紀(ピアニスト、糸魚川市在住)